

青空教室の結果について

1 実施期間

令和6年（2024年）9月14日（土）～9月16日（月・祝）2泊3日

2 実施までの経過

7月13日（土） 参加者説明会（まなぶん横須賀）

市スタッフおよび自然の家スタッフによる参加希望者とその保護者に向けた説明会

8月23日（金） 参加者交流会（まなぶん横須賀）

市スタッフ、学生ボランティアと参加者の交流

3 実施場所

国立若狭湾青少年自然の家（福井県小浜市）

4 結 果

(1) 参加児童生徒数（申込み16名、キャンセル1名）

		小3	小6	中1	中2	中3	総計
教育支援 センター	男		1		2	1	4
	女	1	1	2	7		11
計		1	2	2	9	1	15

(2) 活動内容（主な内容）

9月14日（土） 8：30 東海市役所集合、出発の会
 11：30 縄文ロマンパーク、海浜自然センター
 14：00 国立若狭湾青少年自然の家着
 15：40 活動① ボランティアとの交流
 19：00 活動② ナイトウォーク等

9月15日（日） 9：00 活動③ 山の散策
 13：30 活動④ カヤック、サップ、磯釣り、磯観察
 19：00 活動⑤ ボランティアへの感謝の手紙作成
 ボランティアとの交流

9月16日（月・祝） 9：00 活動⑥ カッター船活動
 14：00 国立若狭湾青少年自然の家発
 17：00 東海市役所着、解散

(3) 参加した児童生徒の様子

- ・1日目は、まず縄文ロマンパークで昼食をとってから福井県海浜自然センターを見学するなど、福井県の施設を訪問した。その後、国立若狭湾青少年自然の家に予定通り到着し、若狭のスタッフの方々にしっかりと挨拶をした後、アイスブレイクを行い、緊張した心をほぐすことができた。大学生ボランティアと

一緒に過ごすうちに会話も進み、少しずつ打ち解けていき、日が沈むまで海辺で過ごす姿も見られた。夜は、スウェーデントーチの灯りを眺めながら、波の音を聴いたり、星空を眺めたり、ゆっくりとした時間を感じることができた。

- ・ 2日目の午前は、山へ散策にでかけた。沢に降りて、沢蟹を観察することができた。山の匂いや鳥の鳴き声など、自然を感じながら散策を楽しむことができた。午後も天候に恵まれ海が穏やかだったため、海の活動を行うことができた。国立若狭湾青少年自然の家のスタッフのサポートの減少により、昨年度まで実施していた活動を大幅に削減したが子どもたちは、海に入れた喜びと自然の美しさに感動した様子だった。大学生ボランティアと楽しみながら活動する姿が見られた。夜には、大学生ボランティアへ感謝の思いを込めて、手紙を書くことができた
- ・ 3日目の朝は雨が降っていたが、カッター船活動の開始の時には日差しが戻り、子どもたちとボランティアと力を合わせて大きな船を漕ぐことができた。おわりのつどいでは、前夜に書いた手紙をお世話になった大学生ボランティアに手渡し、感謝の気持ちを伝えた。また、大学生ボランティアもサプライズで手紙を用意しており、受け取った子どもたちからは笑顔と涙があふれていた。14時過ぎに若狭湾青少年自然の家を出発し、17時頃に市役所に帰着した。子どもたちに疲れは見たものの、さまざまな活動に取り組めたという達成感でいっぱいの充実した顔が見られた。迎えに来てくださった保護者の方々も安堵した表情で子どもたちを迎えてくださった。

5 評 価

- ・ 7月13日（土）の参加者説明会では、申し込みを迷われている児童生徒や保護者が多くみられたが、国立若狭湾青少年自然の家のスタッフから海の活動について詳しい説明があったため、説明会後に申し込みをした児童生徒がいた。
- ・ 今年度より若狭湾からの学生ボランティアの派遣がなくなったため、東海市からの大学生ボランティア9名（星城大学4名・日本福祉大学5名）の参加は大変有り難かった。子どもたちに寄り添いながら活動をサポートいただいた。
- ・ 参加した子どもに成長や変化が見られた。特にボランティアとの交流や海の活動が楽しかった様子が伺えた。（4(3)に提示）

6 課 題

- ・ 今年度も参加者は、「ほっと東海」に通級している者のみの参加であった。今後、ほっと東海への通級者に限らず、不登校傾向の児童生徒とその保護者に、青空教室の目的、実施内容及び参加者の声を広く届けられるよう各校からの案内の工夫が課題である。
- ・ 3日目の最終日に大学生ボランティアが熱中症にかかり、市の緊急車両で40分ほど早く帰庁した。児童生徒でけがや病気が発生することはなかったが、体調不良者が出た場合、保護者がすぐに迎えに来ることが難しいため、引き続き本施設で実施することが望ましいかを検討していく必要がある。
- ・ 来年度以降は、国立若狭湾青少年自然の家のスタッフのサポートがないため、海の活動の精選を図っていく必要がある。
- ・ 大学生ボランティアを確保していくために、星城大学、日本福祉大学、大同大学以外の大学にも募集を行っていく必要がある。